

帯広市男女共同参画情報誌

# カスタネット

Vol.47 2024.3

第22回

ひとひと  
「女と男の一行詩」

最優秀賞作品 / 人生の

生き方決めるの 自分だよ

特集

## 高校生から見た男女共同参画



男女共同参画セミナー実施報告

第22回「女と男の一行詩」入賞作品発表

推進員だより

バックナンバーは  
こちらのQRコードから  
読むことができます



「カスタネット」とは・・・2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

# 高校生から見た男女共同参画

帯広市では、男女共同参画に目を向けるきっかけづくりの一つとして「女と男の一行詩」を行っています。

「女と男の一行詩」とは、男女間における無意識の思い込みや、社会的・経済的な格差や差別など、身近に感じる思いや心の声を自由に表現した形式のない川柳のようなものです。

今回は、第21回（令和4年度）の応募作品の中から、入賞された帯広北高等学校の山崎かえでさん、鷺見光紀さんに一行詩の制作を通じた男女共同参画についてお話を伺いました。

山崎かえでさん（入選）

「男女でも 家賃は同じ 給料は？」

鷺見光紀さん（入選）

「男女共同参画は 子どものためではなく 子どもの未来のため」

〇「女と男の一行詩を考えるにあたってどのような情景を思い浮かべましたか」

山崎さん 私の中で男女の差を感じているのは給料のことです。調べていくうちに女性は出産や育児による休職が「勤続年数」や「管理職登用」などに影響し、男女間の給料に差があることを知り、それを題材にしました。  
鷺見さん 私は現状というよりは未来にフォーカスして考えてみました。

〇今の日本の社会は男女平等だと思いますか  
山崎さん 平等ではない部分が多いと感じていますが、平等という考え方について、男性と女性では認識のズレがあるのではないかと思います。

また、平等だけでなく公平という考え方も大事だと思っています。学校でも全員に同じ指導を行うことは平等ですが、生徒全員にとってそれが適切とは限らないと考えています。個人の能力に合わせて適切なサポートを行うことも大切なのではないでしょうか。

鷺見さん 平等ではないと感じることはあります。学校の中で男女に分かれることがあります。学校の中で男女に分かれることがありますが、必要なと思うこともあり、必要ないと思うこともあります。男女に分かれるのが「普通」という考えのまま大人になってしまいう人もいるのではないかと不安に思っています。



〇「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識についてどう思いますか

山崎さん 私の家では両親ともに朝食の準備などをしている姿を見ていたので感じたことはありません。「男だから」「女だから」と

役割を決めるのではなく二人で話し合いをして家事などの分担を決めることが大切だと考えています。

鷺見さん あまり良い考え方ではないと思います。私の父は単身赴任をしていたので、家事をする姿を見る機会は少なかったですが、お互い家事をすることや、男性が主夫をするのも良いと思います。

〇女性の育児休業取得率と比べて、男性の育児休業取得率がなかなか上がらない現状についてどう思いますか

「令和4年度雇用均等基本調査（厚生労働省）」によると、女性の育児休業取得率は80%、男性の取得率は17.1%で、前年14%から上昇していますが、女性の取得率と比較すると低い数値になっています。

山崎さん 男性の育児休業取得率が女性に比べて低いのは、育児に対しての知識が不足していて、「大変なこと」だと抵抗感があるのではないかと思います。育児の講習などを行うことで、身近に感じることであれば、取得率も上がるのではないのでしょうか。

鷺見さん 自分が父親になったら育児休業を取得して育児をしたいと考えています。小さい頃からの考え方や教育は大事だと思います。

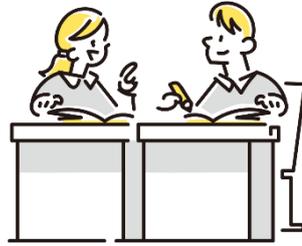


### △取材後の生徒の感想△

**山崎さん** 私は「男女共同参画」という言葉について詳しく知らなかったのですが、取材を受けるにあたって色々調べました。

世間では男女平等が大切だと言われていますが、私は男女「公平」も大切ではないかと考えるようになりました。子どもを持つ女性と子どもを持たない女性が同じ量の仕事をすることは難しいと思います。子どもを持つ女性は仕事をもち帰ることも残業をすることも難しいです。そう考えると平等ではなく

公平であることが大切だと思います。今回、取材を受けたことによってこのような考えを持つことができ、有意義な時間になりました。



**驚見さん** 自分の作品が入選し、取材を受けるというとても貴重な経験をさせていただきまし

た。また、取材を通じ、自分の未来や日本の未来、子どもたちの未来も深く考えることができました。男女差別という点で今まで自分が感じていた違和感などについて、今回、改善に向けた発信の協力ができたと思うので、より一層男女の壁を感じさせない世の中の実現を願っています。まだまだこれからだと思いますので、自分ができることを精一杯やっというつもりです。

### △推進員の感想△

男女の賃金格差は、日本がジェンダー・ギャップ（男女格差）指数の順位を下げている原因の一つなので、早急に改善されなければならぬ問題です。分ける必要がない場面でも男女で分けてしまう点は、真剣に考えていくことが重要だと思っています。

高校生の考えを聞いて、未来に期待が持てると心強く思いました。（遠藤推進員）

今回の取材に対して男女格差をあらためて深掘りしてくれたとのこと。また自分の将来を決める参考になっているということなど、感じたことを自分の生き方に繋げようとしていることに感銘を受け、今回の取材が意義のあるものになったと感じました。

これを機にもっと若い方の意見を世の中に反映できたら、良い問題提起になると思いました。（新川推進員）

自分の考えを持つ若い人たちがこれからの日本の社会を変えていくと確信できた取材となりました。

小さい頃から男女共同参画に関する考え方に触れて育ってきた若者たちは、両親の姿を見て日々成長し、自分たちの将来を具体的に考えています。変わるべきは若者を受け入れるこれらの社会です。（田沼推進員）



### 男女共同参画セミナー実施報告

#### 脚本家の視点から

△ドラマの取材を通して思うこと△

講師：中園 ミホ氏

令和5年8月5日（土）、脚本家の中園ミホ氏を講師に迎え、男女共同参画セミナーを開催しました。今回のセミナーは幅広い世代から18名の参加がありました。「私は取材が命」という中園氏が、脚本執筆のために多くの女性へ取材してきた中で得た経験から、「人との繋がりは信頼から生まれるため、自分の気持ちを正直に声に出すことが大切」とお話をいただきました。

参加者からは「言いたいことが言える、本当に大切なことだと思いました。」「年齢が50代で、男尊女卑の社会の中で仕事をしてきたので、とても共感出来ました。」「5年後、10年後になりたい自分の姿を思い浮かべてみます」などの声がありました。

（田沼推進員）



# 第22回「女と男の一行詩」入賞作品発表

## 【最優秀賞】

人生の 生き方決めるの 自分だよ

飯田 優里さん (高校生)

## 【優秀賞】

イクメンと 言われるけれど あたりまえ

上田 美帆さん (高校生)

多様性 互いに認める あたたかさ

岡本 心那さん (高校生)

## 【入選】

受付『嬢』 元から俺は 対象外

岩田 桃佳さん (一般)

「母親なのに」 貴方も同じ 「親」ですよ

大野 莉奈さん (一般)

重いもの 二人で持つと 軽くなる

橋本 怜奈さん (高校生)

今回は128名257作品の応募をいただき、一般投票と選考委員による審査の結果、入賞6作品が決定しました。



表彰式に出席した入選の岩田さん(中央)  
(左/阪口選考委員長、右/池原副市長)

**講評** どの作品も男女共同参画への思いが込められた素晴らしいものでした。たくさん作品を見る中で感じたことは、特に若い世代を中心に、男女共同参画や多様性を認め合うのは当たり前で、性別で差を設けるなんてナンセンスだ、といった意識が広がっていることです。その一方で、実際の家庭や職場においては日々の何気ない言葉や行動の中にも、まだまだ「夫だから・妻だから」「父親だから・母親だから」「男性だから・女性だから」などといった性別役割分担意識が残っている、そんなことをあらためて気付かせてくれる作品も多くありました。過去の入選作から読み返してみると、着実に社会の中に共生の意識が広まってきていることを感じます。今年度の入賞作品はいずれも今の時代に即したもので、多くの市民の皆様の心に響くものと思います。

「女と男の一行詩」選考委員長 阪口 剛 (阪口法律事務所)

## 推進員だより



帯広市男女共同参画推進員は、市民協働のパートナーとして、帯広市と一緒に男女共同参画を広げるための活動をしています。

ここでは、活動の様子やメンバーについて紹介します。



今回は武藤が担当です。

先日、保育園の子どもにも先生が付き添って散歩しているのを見かけました。

何十年前前のことなのでほんのことは忘れてしまいましたが、私が幼稚園に通っていた頃、幼稚園のバスに乗って通園していたことや、お店のまねをしてオモチャのお札を使い、お金の使い方を勉強したことを覚えています。

テレビで小さな子どもの事故や怪我などのニュースを見る度に、活発で目が離せない年齢の園児をお世話する保育士や幼稚園の先生の仕事の大変さに感じています。普段どのようなことに気をつけているか、一度聞いてみたいと思いました。

〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1  
帯広市 市民活動課 男女共同参画係  
電話 0155-65-4134 FAX 0155-23-0156  
電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

令和6年3月 発行

●発行：帯広市  
●企画編集：帯広市男女共同参画推進員  
伊藤 容子・浦端 昭道・遠藤 妙子  
新川 清子・田沼 誠子・沼田 秀実